

オオクシヒゲシマメイガ

チョウセントリバ?としてシリーズ虫にアップしましたが、正体が判明いたしました。ネットで蛾の画像をいろいろ見ていましたら、オオクシヒゲシマメイガの画像がみつかりました。上の画像が2015年7月23日7時35分に支笏湖ユースホテル北側の一般住宅区の一隅に残された小さな笹叢で出会い、撮影した画像です。中の画像がネットで出会ったオオクシヒゲシマメイガの画像です。形体も翅の模様も一致しています。手稲区にお住まいの方の蛾の画像の中がありました。



別の情報から標本として展翅した画像もみつかりました(下)。メイガ科、シマメイガ亜科に分類されています。分布は北海道、本州、四国、九州、対馬、カラフト、シベリア沿海州、朝鮮半島と記載されています。出現は6~9月、開張は26~33mm、食草は北海道ではミズナラのようなようです。



蛾の翅模様は天敵から逃れる擬態であることが多いと感じます。出会ったときも枯葉のかけらがクマイザサの葉の上に落ちているようにみえました。前肢を前方に伸ばした変な形が特徴のようです。なんとなくおどろおどろしい感じがする形ではありませんかね。愛用している図鑑「札幌の昆虫」には収録されていませんので、希少種なのでありましょう。

インターネットはまことに有難いもので、いろいろな物を調べることが出来て重宝しています。人間の探求心はあらゆる物に名前をつけて、研究し分類しているのは凄いことです。

和名の頭にオオがついています。大きいことを表します。近縁のクシヒゲシマメイガとミサキクシヒゲシマメイガたちより少し大きいということです。クシヒゲとはみの触角が櫛状であることからの命名でしょう。♀の触角は糸状であることが多いのです。♀の発信するフェロモンを凄い感度で受信するアンテナがみの触角なのでその濃淡を感知しながら濃い方に向かって行きつく先に♀がいるわけで、多くの昆虫に共通する雌雄出会いのシステムなのです。上の2点の画像の触角は♀のようです。

